

「見えない軸 - 距離と角度」 植松 奎二

今、丁度午前零時。この地球が一回転したことになる。
私達の地球では 23.43 度地軸が傾いている。その地軸は 2 万 6 千年かけて少しずつずれて一回転してもとにもどると云われている。
今ある北極星は一万年後には別の星になっている。

世界の構造、存在、関係をよりあらわに見えるようにして何かを発見したい、見えないものを見えるようにしたいといつも思いながら制作してきた。

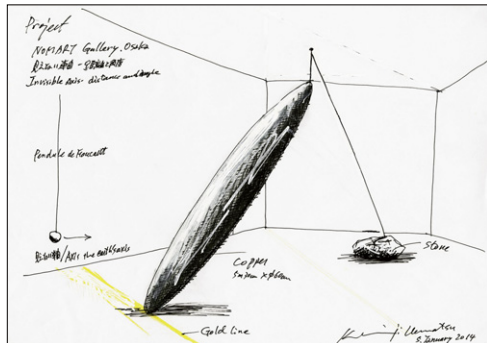
それは、ときには物と物とのあいだにある重力、引力といった目に見えない普遍的な力への関心であったり、根源的なものと宇宙的なる力への素朴な関心である。

そして、自然や地球、宇宙といったものに囲まれてる、人間の存在に対する問いかけである。

今回の個展のテーマは「重力と螺旋」の場である。

目に見えない重力、引力を目で確かめることの出来る重力のかたちの場。そして宇宙の神秘的な法則であり、宇宙を支配する螺旋。永遠と生命の象徴である螺旋の場。これら重力と螺旋の場から地球と宇宙、自然と人間の存在にかかわる関係を示すような、小さな宇宙空間を画廊の中に創り出すことを考えている。

展覧会の内容について (文: 植松 奎二)

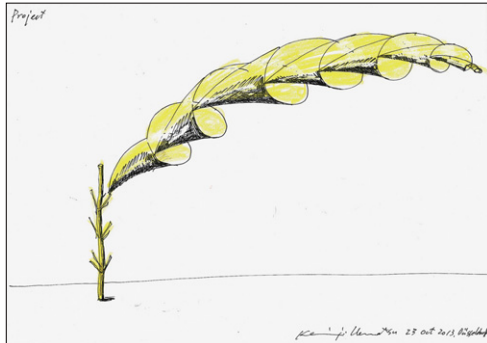


1. 「見えない軸—距離と角度 Invisible axis - distance and angle」

画廊の中央には巨大な銅で出来た紡錘体が吊り上げられている。一方の先端は床につき、もう一方はワイヤーでひっぱられ石の重さで中空に停まっている。空間の安定と不安定の平衡の場がつけられている。

一点が床につくことによって重力の場が強調される。ここには、目に見えない重力を目で確かめる発見と驚き、時空の幾何学であると云われる重力の場が、重力のかたちがある。

それは、世界の構成軸と方向軸としての垂直と水平である。

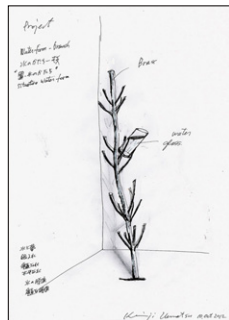


2. 「螺旋の気配一枝 Touch of Spiral - branch」

真鍮で出来た枝の先端からエネルギーが放出されるように、螺旋構造体が軽やかな優雅な曲線をつくり出している。ここには生命の曲線といわれる螺旋の場がある。木の枝や葉、花びらなど自然の中に、秩序ある関係としてある螺旋から、宇宙の世界まで含まれる螺旋構造の関係がみてとれる。

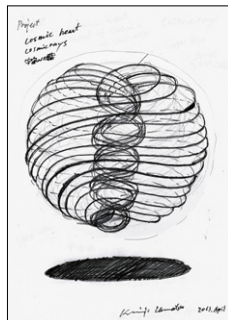
3. 「置—水のかたち Situation - Water Form」

真鍮で出来た幹と枝。その枝のところに水の入ったコップがとまっている。水は水平面を保っている。落下の停止。ここでは水平、垂直、傾斜との関係から、目に見えない重力を目で確かめることの出来る地球の、世界の構成軸としての重力の場が、引力の場がある。



4. 「宇宙の心臓 Cosmic heart」

永遠にとどまることのない連続する螺旋の線の集合体である。宇宙の神秘的な法則と宇宙を支配する螺旋。生命と永遠の象徴としての「宇宙の心臓」がここにはある。



5. 「置—重力軸、宇宙の積木 Situation - gravity axis」 (drawing)

宇宙も、太陽と地球も、星と星も、目に見えない大きな重力場によって存在を決定づけられている。

重力は宇宙を支配する。黒ぐると描かれた紡錘体は暗黒物質、ブラックホール、消失点、特異点、反重力、宇宙に浮ぶものの影のようである。それらは宇宙の積木として描かれた。

重力こそ、ものにとって、世界に、宇宙にとって最大の拘束条件であり、世界の方向性の軸、垂直軸を表わす。

